

令和2年度 学校自己評価システムシート (滑川町立福田小学校)

目指す学校像	豊かな知と心と体を育て、一人一人を生かす学校 《 チーム福小! 本気・活気・いい笑顔!! 》
--------	--

重点目標	(1) 分かる授業を展開し、児童一人一人の学力を伸ばす学校 (2) 優しさや思いやりの心で、人を大切にする児童を育てる学校 (3) 児童の心身を鍛え、たくましく成長させる学校 (4) 安全で安心できる学校 (5) 児童・保護者や地域から信頼される学校
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	名
	事務局(教職員)	2名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	・昨年度児童対象アンケートで「先生の授業は、わかりやすい」の95.8%、「先生は分からないところを最後まででいてねいに教えてくれる」の肯定評価98.4%	・新学習指導要領全面実施に対応した教育課程の実施 ・主体的な学びの展開 ・対話的な学びの展開 ・深い学びの展開	・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成 ・めあてを示し、見通しをもたせる授業 ・一方通行の発言ではなく子供同士つながりのある双方向の対話になる授業の工夫 ・問題解決的な学習や探究的な学習の工夫	・児童対象アンケート「先生の授業は、わかりやすい」 「先生は分からないところを最後まででいてねいに教えてくれる」で肯定評価95%以上。 ・各学年単元テストにおける達成率、国・算85%以上。	・「先生の授業は、わかりやすい」肯定評価99.3% 「先生は分からないところを最後まででいてねいに教えてくれる」肯定評価98.6% ・各学年単元テストにおける達成率、国・算85%以上。	A	・分かる授業、児童一人一人の学力を伸ばす授業は展開されているが、コロナ禍の影響で、対話的な学習に制約があるので、来年度は新たに導入されるタブレットパソコンを有効に活用した授業の工夫が課題。
2	・昨年度児童対象アンケートで「困っている友達を、助けてあげることが出来る」が92.8%、「友達に“ちくちく言葉”を使わずにやさしい言葉づかいをしている」が91.4%	・相手を思いやる優しい言動 ・やさしい言葉づかい	・「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」の繰り返し指導(校長講話・学級指導) ・全教育活動を通じた人権教育の推進 ・道徳科教育の充実と“考え、議論する道徳”実践 ・縦割り活動の充実 ・あいさつ運動の継続、推進	・児童の生活ふり回りアンケートで、「自分がされていやなことは人にしていない」肯定評価95.2%、「困っている友達を、助けてあげることが出来る」が91.4%、「友達にやさしい言葉づかいをしている」の各項目ともに肯定評価95%以上。	・「自分がされていやなことは人にしていない」肯定評価95.2%、「困っている友達を、助けてあげることが出来る」肯定評価98.6%、「友達にやさしい言葉づかいをしている」肯定評価95.2%。	A	・「自分がされていやなことは人にしていない」児童の割合が2学期の方が少なくなった。次年度は時間の経過とともに「自分がされていやなことは人にしていない」児童が増えるような指導をするのが課題。
3	・人権感覚調査で低学年は自己尊重の感情とコミュニケーション能力が低い、高学年は公平公正が低いことが課題 ・新体力テスト96項目中64項目が県平均以下。体力・運動能力の底上げが課題	・自己肯定感、公平公正感の高揚 ・新体力テストにおいて3学年以上で県平均以下の項目の強化	・ほめて伸ばす指導 ・特別活動の充実。学級活動、児童会活動における一人一人の活躍の場の確保 ・新体力テスト結果分析による弱点克服への取り組み	・県学調「児童質問紙調査」の「自分にはよいところがあると思いますか」前学年県平均以上。 ・新体力テストで握力・50m走・立ち幅跳びにおいて4学年以上が県平均以上。	・県学調「児童質問紙調査」の「自分にはよいところがあると思いますか」4年県平均よりプラス4.7%、5年生プラス4.1%、6年生マイナス0.7% ・新体力テストはコロナ禍の影響で実施できず。	A	・高学年の自己肯定感が高まったが低学年の自己肯定感是人権感覚調査では他の項目より低い。低学年はほめて伸ばす指導が必要。 ・コロナ禍での運動不足により体力面が落ちていないか検証し、必要に応じ強化を図ることが課題。
4	・昨年度保護者対象教育アンケートで「学校は、いじめへのアンテナを高く張り、対応に努めている」の肯定評価84.5%、「よくわからない」11.0%。現段階ではいじめに関する大きな問題はないが、学校の取組を保護者に周知していくことが課題。	・いじめ解消率100%	・安心感のある温かい学級づくり ・生徒指導体制の充実 ・教育相談体制の充実 ・定期相談、チャンス相談の実施 ・保護者との密な連絡	・教育アンケート「学校は、いじめへのアンテナを高く張り、対応に努めている」の肯定評価90%以上。「よくわからない」5%以下。	・「学校は、いじめへのアンテナを高く張り、対応に努めている」の肯定評価91.7%。「よくわからない」6.3%で昨年度より肯定評価が増え、「よくわからない」の割合が減少した。「いじめ」として認知した件数は1件あったが適切に対応し、解消した。	A	・毎月1度、全教職員で生徒指導委員会(情報交換会)を行っていることや年2回いじめアンケートを行っていること、「ふれあいたいム」という児童との面談の時間を設けていることなどいじめ防止・対応の取組を学校だよりをとおして保護者に発信していくことが必要。
5	・「学校は、学校応援団と連携して創意工夫した教育活動に取り組んでいる」の肯定評価89%、「よくわからない」が6.5%いるので見える化・活性化するのが課題。	・学校応援団との連携の見える化・活性化	・学校応援団への要請、応募システムの再確認・周知 ・学校応援団コーディネーターと学校の連携体制の強化。	・教育アンケートで「学校は、学校応援団と連携して創意工夫した教育活動に取り組んでいる」の「よくわからない」を0にする。	・「学校は、学校応援団と連携して創意工夫した教育活動に取り組んでいる」の肯定評価91.7%「よくわからない」3.5%。	A	・今年度は新型コロナの影響で学校応援団活動にも制約があったが、除草作業、ミシンボランティア等の活動を行った。次年度もコロナ禍の中でいかに応援団活動を周知し募集していくかが課題。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童と教職員のよい関係が築けている。 ・小規模校の特性を生かし、きめの細かい指導がなされている。 ・小規模校なので先生方のストレスが心配。 ・新型コロナ対応の休業による学習の遅れは取り戻せたか。(→未指導部分や欠課について把握し計画的に指導することで遅れは取り戻せた。) ・達成度Aは妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやる心が育っていると聞いて安心した。 ・下駄箱の靴が大変よくそろっていてすばらしい。指導のたまもの。 ・修学旅行を実施してもらってよかった。 ・学校行事は適した季節での実施を大切にしてほしい。 ・達成度Aは妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感も育ってきているようで安心した。 ・ほめて伸ばすという姿勢は大切である。 ・子供の意見にも耳を傾け、率直な気持ちを大切に。 ・達成度Aは妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの定義が変わったということで、早期発見につながる。 ・子供のストレス、うつなどにも気をつけてほしい。 ・達成度Aは妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団の活動は保護者だけに頼るのではなく、地域の資源や人材をどんどん取り込んでほしい。地域住民、特にシニア世代は協力を惜しまない。 ・達成度Aは妥当である。 	